

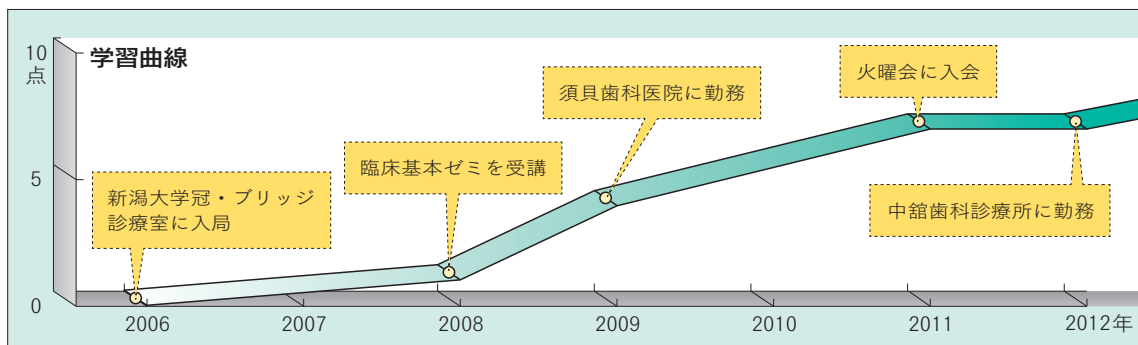
MTM による移植歯周囲歯槽骨レベルの改善

中舘正芳

キーワード：自家歯牙移植，MTM，歯槽骨レベル

臨床経験年数

卒後11年目。2002年新潟大学歯学部卒業後，同大学大学院にてインプラントと骨補填材に関する基礎研究を行った。卒後は同大学附属病院(冠・ブリッジ診療室)に勤務。2008年に『臨床基本ゼミ』を受講。その翌年から須貝歯科医院(神奈川県川崎市)に勤務し，同年よりオブザーバーとしてスタディグループ『火曜会』に参加。2012年4月から，中舘歯科診療所(静岡県静岡市)で親子診療を行っている。



診療方針

- ・個別対応：「ひと」，「くち」，「は」

患者単位，一口腔単位，歯牙単位で問題点を整理し，患者それぞれに合った治療計画を考える。

- ・過不足のない治療

最小限の処置で最大限の効果を得られるような治療を行う。

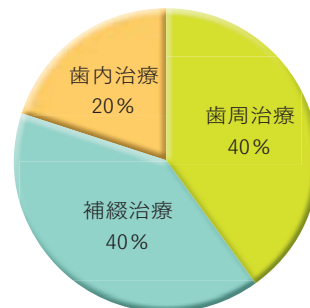
- ・後戻りのない治療

1つひとつの処置を確実に言い，やり直しがないように心がける。

日々の臨床

実家の医院に勤務してからまだ間もないため，院内設備や診療システムの構築に没頭している毎日である。親子間で診療システムや治療方針に相違があるため，自分の考えをどうすれば患者やスタッフに受け入れてもらえるか，日々頭を悩ませているところである。

【日常臨床で頻度の多い割合】



企画趣旨

患者の主訴や口腔内の状態など、その背景はさまざまであるが、「1 歯の治療にこだわること」、それがすべての基本であり、はじめの1 歩といえよう。

本欄では、患者の背景を踏まえつつ1 歯に対する治療にこだわる若手歯科医師に、どのように診査・診断し、治療計画を立て、治療結果を得たのか、その患者と信頼関係を築くまでの過程を自己評価も含めて提示いただく。また、師匠や先輩歯科医師からのメッセージもあわせて掲載。

1 つひとつの処置を確実に

中舘正芳

Masayoshi Nakadate

中舘歯科診療所
連絡先：〒420-0065 静岡県静岡市葵区新通
1-8-18



初診時の状態

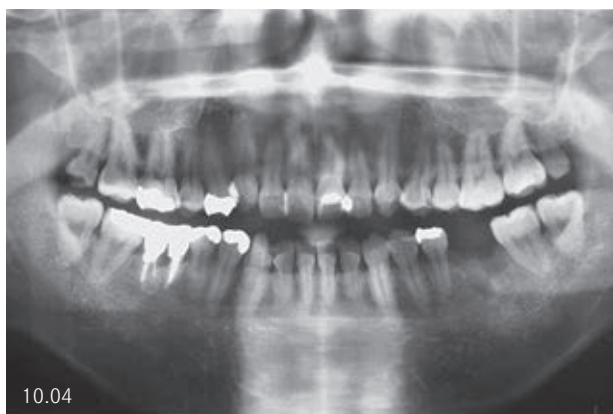


図1 〔6〕抜歯窩周囲歯槽骨に異常像は認められないが、〔5〕歯根膜腔が拡大している。また、智歯はすべて残存している。



図2 抜歯窩頬側の歯槽骨レベルが下がっている。前方ガイドがなく、白歯部は1 歯対1 歯の咬合関係になっている。

患者のバックグラウンド

■患者：30歳，男性，会社員。インターネットで，自家歯牙移植を行っている医院を検索して来院した。温厚な人で，初診時からとても話しやすかった。

■主訴：〔6〕欠損部の補綴。う蝕により，他院で〔6〕を抜歯されていた(初診の10日前)。「抜歯後はブリッジになる」という説明を受けたが，できれば自分の歯を削られ

たくない]ということであった。

■歯科的既往：隣接面を中心に多数の CR 充填がされていた。また，顎関節症状はなかった。

■バックグラウンド：全身的既往歴に特記事項はなく，喫煙の既往もなかった。

診査・診断，治療計画

■どのように診査を進め，診断したか：〔6〕の喪失原因はう蝕であった。また，両隣在歯は切削が許される状態であり，ブリッジも考えられたが，前方ガイドがなく〔5〕の歯根膜腔が拡大していたこと，抜歯直後であること，移植歯となりえる智歯があること，などの理由から自家歯牙移植が適当であると判断した。

■診査結果および治療計画説明時の患者の反応：移植床となる〔6〕抜歯窩の治療にはなかったが，頬側の歯槽骨レベルが低下していた。また移植歯は，移植床との適合性から〔8〕を選択した。治療計画については，患者自身が移植を希望されていたのでとくに問題なく受け入れていただけた。

MTM による移植歯周囲歯槽骨レベルの改善

■治療の実際： $\overline{6}$ 歯槽頂部に最小限の切開を行い，移植床を形成した後， $\overline{8}$ を移植した。この際，頬側歯槽骨レベルの低下により，移植歯は隣在歯よりも深く埋入せざるをえなかった。その後，移植歯の炎症性吸収を防ぐために移植3週間後から根管治療を開始した。

根管治療後も移植歯は自然挺出せず，歯槽骨レベルが不整となってしまった。そこで，歯槽骨の平坦化を目的として MTM を行い，CEJ ラインを整えた後に最終補綴を行った。



図3 手術当日の移植床。抜歯窩近遠心部の歯肉は上皮化している。

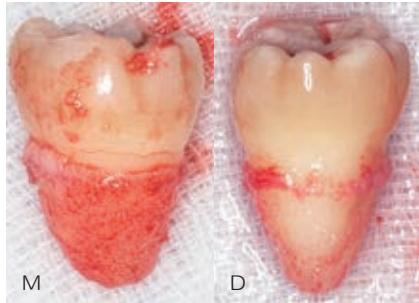


図4 移植歯($\overline{8}$)の状態。十分な歯根膜が残存している。



図5 移植直後の状態。隣在歯 CEJ のラインよりも，深い位置まで埋入されている。

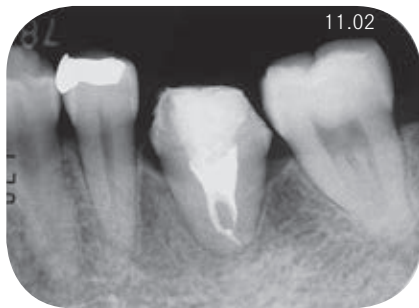


図6 | 図7

図6 根管治療開始時(移植3週間後)のデンタルエックス線写真。
図7 移植10か月後のデンタルエックス線写真。移植歯近遠心部の歯槽骨には段差ができています。

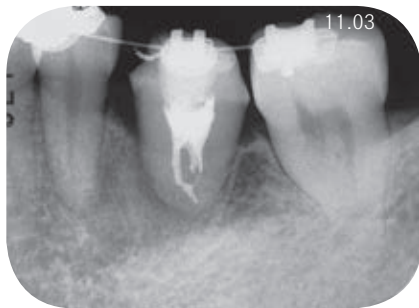


図8 | 図9

図8 移植歯の挺出と， $\overline{7}$ との根近接を改善するために，MTM を行った。
図9 MTM 後のデンタルエックス線写真。移植歯の挺出により CEJ ラインは改善されている。

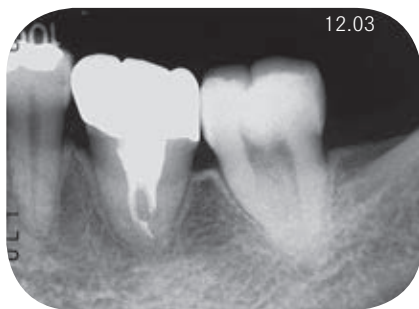


図10a | 図10b

図10a 補綴8か月後(移植2年後)の側方面観。移植歯およびその周囲組織に，異常は認められない。
図10b 同日のデンタルエックス線写真。移植歯周囲の歯槽骨には，正常な骨梁構造が確認できる。また歯根吸収像はみられず，明瞭な歯槽硬線・歯根膜腔が認められる。

治療結果の自己評価と患者の様子

■自己評価：現時点では、移植歯に問題は生じていない。MTMによって歯槽骨レベルが改善したことで、歯周組織が安定したと考えている。治療期間は延長してしまったが、処置の予知性を高めるうえでひと手間かける重要性を感じた。

■信頼関係が築けたと感じた瞬間：MTMの話をした際に、「先生が必要と思われるならぜひやってくださ

い」と快諾していただけたとき。

■今後の課題：術前に移植後の治療像を十分にイメージできておらず、MTMが必要となる可能性を患者に伝えていなかった。今後は、処置の経過や治療像をあらかじめ予測できるようになるために、臨床経験や基礎的な知識を蓄積していきたいと考えている。

先輩 Dr. からのメッセージ



仲村裕之

1985年 東京医科歯科大学卒業後、神奈川県・横浜市綱島の林歯科医院勤務
1988年 神奈川県・鎌倉市にて開業
スタディグループ火曜会会員、日本歯周病学会会員

〔治療方針〕

患者の要望をていねいにくみ上げ、歯の保存を最優先させる。主訴への対応後、歯科衛生士の協力のもと、プラークコントロールと力のコントロールを行いながら全顎的に診査、治療を行っていく。治療後は、新たなスタートと位置づけメンテナンスを重視している。

▶ケースから感じること

自家歯牙移植は、若手歯科医師にとって歯科治療全体を俯瞰できる絶好な勉強の場である。移植歯歯周組織の診査、抜歯後の廓清、歯根膜状態の確認、隣在歯のCEJの確認、生物学的幅径の理解(埋入深度にかかわる)、根管治療の理解、歯肉弁の扱いなど、クリアすべき要素が多い。本症例は、自家歯牙移植の最適応症であり、中館先生はすべての行程をみごとにこなしている。前歯部ガイドがないことから、臼歯部に負担がかかりやすいことが推測され、さらに1歯対1歯の咬合、 $\overline{6}$ $\overline{7}$ の辺縁隆線の乱れなど、咬合全体に不安要素が多いなかでの、 $\overline{6}$ の天然歯の復活は非常に意義があったと思われる。

頬側骨の吸収した状態での埋入深度は術中迷うことがあるが、意識して適度に深く埋入したのは適確な判断であった。宙に浮いた状態で移植して歯槽骨が再生する症例もあるが、やはり骨内に歯根膜をおさめるほうが予知性は高い。重箱の隅をつつくなら、 $\overline{5}$ の時点で、 $\overline{7}$ 近心のC1の処置や移植歯の軟化象牙質除去が行われていない、 $\overline{9}$ で $\overline{5}$ CEJとの段差を残してしまったなどがあげられるが、臨床的には十分許容範囲である。

▶さらに成長してもらうためのメッセージ

中館先生とは、臨床基本ゼミで知り合った。今は、同じスタディグループ『火曜会』と一緒に研鑽を積む仲間であるが、その実直な人柄は皆が認めるところである。本症例のように若手の歯科医師がよい症例発表をすると、筆者自身にも刺激になるし、毎日の基本治療の大切さをあらためて考えさせられる。

中館先生は、今まで須貝歯科医院という素晴らしい環境で学ぶことができたが、今年から実家に帰り親子診療という新しい環境になった。おそらく、システムもスタッフのあり方も治療方針もいたるところで戸惑うことの連続であろう。そこで、早く落としどころをみつけだし、今まで学んだ基本治療をいかんにかいていねいに行っていくことが大切である。まずは、身近なスタッフから仲良くなり、良好な人間関係を築かなくては、患者に対するチーム医療は行えない。1人ではどうも総合治療は無理である。中館先生であるから心配はしていないが、「和をもって尊し」とし、怒らず焦らず諦めないで地道に基本治療を行っていけば、新しい環境でも中館先生の技術が開花すると信じている。幸い同じスタディグループなので、さらにお互い研鑽を積めればと思っている。

本欄に対するご意見・ご質問は、本誌編集部：edit-q@quint-j.co.jpまでお寄せください。